

佳作

過去を超えて現在いまがある

熊本県 熊本市立下益城城南中学校三年 佐藤 実久

四月十四日、それはいきなり起こった。ドンツといきなり音がした。なんだと思った時にはもう遅く、立っていられないくらい家が揺れた。しゃがんだと同時に停電して上から物が落ちてきた。一時何が起こったか理解できなかった。しかし、携帯から地震に注意して下さいという通知がきた。しばらくして、テレビをつけると大ニュースになっていて、今起きたのは震度七だと知った。心を整理しようとしていると何秒かごとに何回も余震が起こった。熊本では大きな地震はこないと言われていたので安心しきっていた自分が怖くなった。いろんな人と連絡を取り、現実かどうかと安否確認をし、必要なものだけを持って家を出た。体はちゃんと動いていても、頭はパニック状態でまだ少し動揺していた。歩いて逃げるか、車で逃げるか考えた末、車で少し広いグラウン

ドに逃げた。しかし、地震はなかなか収まらなかった。時間が経っても経っても揺れは続いている。不安と恐怖で寝れず時間だけが過ぎていった。夕方まで当たり前のように過ごしていた時間が一瞬にして奪われた。これからどうなるんだろうと考えているうちに、一日、一週間、一ヶ月と時は過ぎ、学校が始まった。友達と会った時、誰も欠けてなくて良かったと心から感じた。

今、考え直すとたくさん人の力があつたからこそ復興できてきていると感じた。今でも建物がこわれていたたり、道路に亀裂が入っていたりする。まだ余震が続いていて怖いけど、十四日のようには怖くない。もう慣れてきているのだ。半年も経っていないのに慣れてきているのはダメだと思う。この怖かった思い、辛かった思いは伝えていかなければならない。今後、もう熊本では今回のような地震は起こらないかもしれないし、起こるかもしれない。未来のことなんて予想もできないが、今を必死に生きていく必要がある。地震が起こった時の思い、復興に手を差し伸べてくれたたくさんの方々、日本で初となる震度、余震の多さなど、忘れてはいけないことがたくさんある。この地震をバカにしたり、いいよ

うに利用する人もいた。本当に困っている人のことを考えると、とても許せない。そういう人にもこの辛さ、怖さをわかってほしいと思った。しかし、それを考えても何も変わらないし、誰も得しない。ただ、ただ今生きていることに、当たり前で過ごせる日々感謝しなければならぬ。そして、出会えた人を大切にしなければならぬ。今回の地震で学んだこと、一番は一人では生きていけないということだ。家族、仲間、知り合い、お店の人、誰かしら、何かしらの手を借りて、今の私達一人一人がある。過去がなければ現在いまもない。現在がなければ未来もない。一日一日を、出会えた人を大切にし、辛いことも楽しいことも忘れず、これからを生活し、感謝の気持ちを持ってはいけなかつくづく思った。